

なきごえ



1977

11

大阪市
天王寺動物園協会

大阪市との友好都市提携 3周年を記念して、中国の上海市から中国産の珍しいキジ、「ベニジュケイ」の夫婦 2組が贈られてきました。ベニジュケイはジャイアントパンダのふるさと、四川省などの標高2000m以上の高山に住む樹上性の強いキジです。日本の動物園にはこれが初めてのお目見えで、北園キジ舎で展示されています。

ベニジュケイ (英名: Temmincks Tragopan.) (学名: Tragopan temminckii)

仲 田 幸 男

キジ類は一般に地上を歩く鳥として有名ですが、ジュケイは樹上で生活し、食物も亦、葉・芽・漿果と果実を主とし、巣も樹上に作る鳥としてキジ類としては珍しいものです。

ジュケイは高山の鳥で、寒い又、暗い湿度の高い樹林の中をすみかとします。5種類あるなかで、此のベニジュケイが一番美しい肉垂を喉から出します。コバルトブリュートとかカーミンレッドを主として出来た肉垂の模様は中国では吉兆を現わすものと云われ、飼う人に幸運をもたらす鳥として古くから飼われ重宝がられています。ジュケイの雄が繁殖期に雌の前で行うディスプレイでは喉から美しい色模様の肉垂を10cmも出し、頭上には2本の空青色の角羽を出して雌におそいかかる光景は正に自然界の一大驚異です。雄は赤色の強い中に細かい白斑が無数にありますが、雌は黒褐色です。中国の陝西省、湖北省、雲南省と四川省、それにアッサム、ビルマ、チベット、トンキン地方に産します。

(筆者: 日本雉、水鳥協会理事長)

なきごえ11月号もくじ

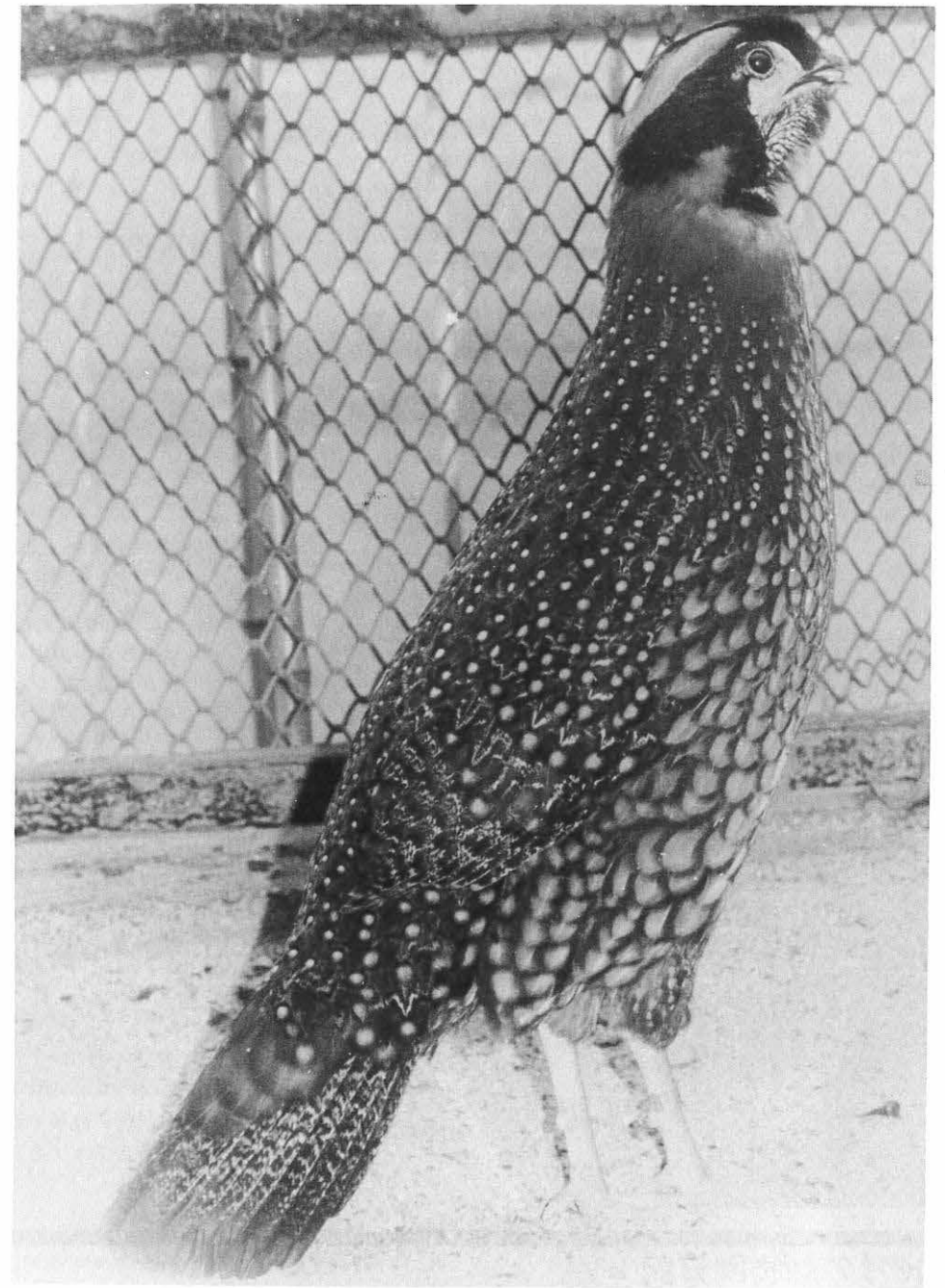
ベニジュケイ	2
ベニジュケイ	3
動物園グラフ	4・5
冠島上陸記	6・7・8・9
ガン、カモの仲間—ツクシガモ類について	10
動物園ニュース	11

表紙の写真説明

“ロウバシガン”

絶滅しかけているこのロウバシガンはオーストラリアに住んでいます。ガンの割には泳ぐことも、また飛ぶこともあまり得意ではなく、始終陸上で暮しています。

(撮影: 宮下 実)



“ベニジュケイ”

3才と5才の^{つが}番いが2組、上海市西郊公園からやってきました。片方は1.5年、もう一方は3年飼われていたそうですが、産卵はしたものの未受精卵だったそうです。

(撮影: 長瀬 健二郎)

動物園グラフ

“食欲の秋”

人間もそうですが、動物達も秋になると食欲がさかんになります。今回は、この動物達の食欲旺盛な採食風景をグラフで特集してみました。

(撮影：宮下 実、長瀬健二郎)



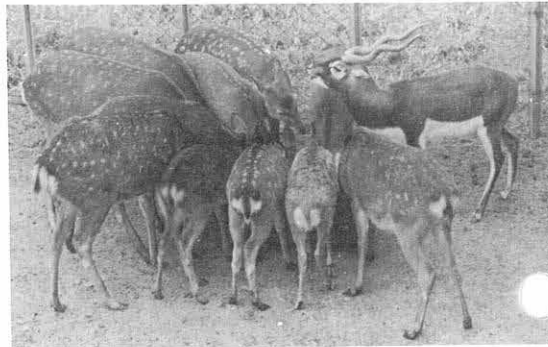
この干草はおいしいネ！モグモグ そうネ!!もう少しかみごたえがあるといいのにネ。モグモグ...



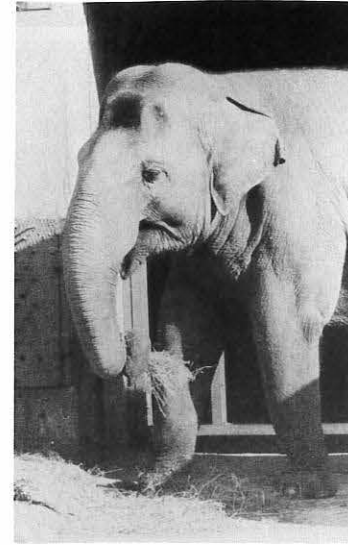
この干草おいしいよ！でも私、少し太り気味だから...



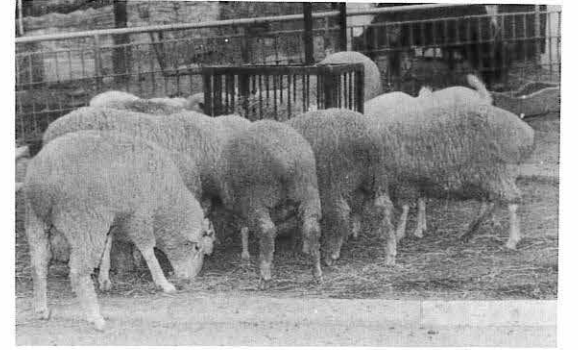
水禽放養舎の中ノ島に大好物のアジがおかれると、シュバシコウ、アオサギ、コサギ、ウミネコなどが集まってきてまさに競争です。



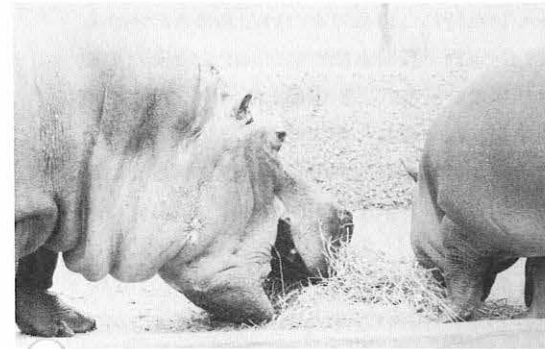
カモシカ園も餌食い競争です。ボクにも食べさせてヨ!とブラックバックが不満そう。



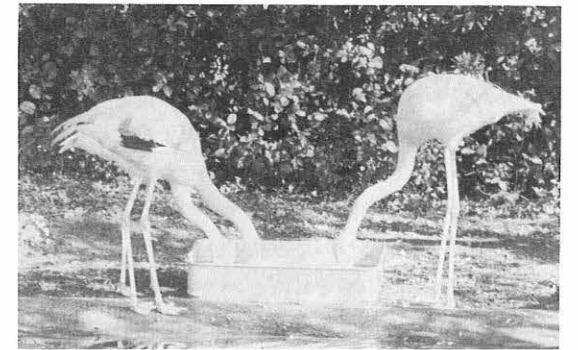
動物園一の大食漢！干草なんて1日に60kgはペロリ。



ウメーウメーと鳴声も食欲をそそりそうです。



こんな大口をあけて食べるのは、少しはしたないけど...でも、食べる時には構ってられないヨ!



フラミンゴの餌入れはアルミの弁当箱？きょうはサクラエビがおいしいワ！いや、このチリメンもいい塩味だヨ!!

9・10月の動物園日記

- 9/21. ブラックバックの老メス、クロが鼻から血を出していたので治療してやりました。チンパンジーの洋子とサクラをこの日から同居させました。
- 22. 人工哺育中のクロヒョウの子が下痢をしているので薬を飲ませました。
- 23. 北園慰霊碑前で動物総合感謝祭を行いました。
- 24. 新装なったサル島にニホンザル20頭が入居しました。

- 27. マングローブスネークが1頭死亡しました。
- 10/1. ボイラーの火入れ式が行われ、これで冬への準備完了です。動物のたべもの展が北園展示館にて開催されました。
- 3. 猛獣脱出捕獲訓練を行いました。
- 5. ギリシャガメ1頭の寄贈がありました。
- 6. 秋田市の大森山動物園からヤマドリ一番、アナグマ1頭をいただきました。
- 7. エチオピアライオンが子供を1頭産みました。仔はメスでした。

- エゾシカも1頭出産しました。チンパンジーのダイスケが風邪気味なので薬を飲ませました。
- 9. 治療中のブラックバックのクロはすっかり回復し、餌をよく食べるようになりました。
- 11. アナグマが左前足を痛めたらしく、ピッコをひいているので治療しました。
- 13. 爪が伸び過ぎていたのでイワトビペンギン6羽、マカロニペンギン2羽の爪を切ってやりました。
- 15. シマウマが疝痛の為死亡しました。

- 17. ニホンシカに発情期が来て危険なので4頭の角切りを行いました。
- 23. ギリシャガメ1頭の寄贈がありました。
- 24. ブタオザルがオスの仔を産みました。チンパンジーのダイスケとカンナが上海に出発しました。
- 26. 宇部の常盤遊園よりボンネットザルのメスをいただきました。
- 29. 人工哺育中のエチオピアライオンの仔が右眼を傷つけていたので治療しました。

冠島上陸記 (下)

長瀬 健二郎

§ 上陸

YT45号は冠島の30m程手前に停止しました。流れが速く船はすぐに流されます。水深は9m。しかし、水はよく澄みきっていて海底の岩が手に取るようにハッキリ見えます。日本海は本当にきれいです。

伝馬船に器材を積み込み上陸です。自衛隊員の方々は船頭さんのように慣れた手つきで伝馬船を操り、一時間程で陸揚げは完了しました。冠島は砂浜がなく、いたる所、一抱え程もある石がゴロゴロと積み重なっています。その岩場を重い器材をかかえて、キャンプをはる老人嶋神社まで運びました。この神社は日本海沿岸の漁師の崇敬を集めているようで、小さな神社にはふつりあいなほどたくさんの大漁祈願や海上安全の幟が祀られていました。狛犬の像の下のかほみに一羽のヒナがいました。毎年決ってここで繁殖するペアがいるのだそうです。初めて眼にするオオミズナギドリのヒナです。体の大きさは合わせた両手の平に一杯位。生後10日目位だそうです。体全体、灰色のやわらかな綿毛に包まれています。とてもかわいいのですが、鉛色をしたクチバシは親と同じように鋭く曲っています。触ろうとした時、そのクチバシでつついてきました。

神社はガケのふもとにあるのですが、斜面も平地もいたるところ無数の穴だらけです。これがオオミズナギドリの巣です。島全体で約13万個あると見積られています。オオミズナギドリは鳥にしては珍しく穴を掘って巣を作ります。直径約20cm、奥行が1.2mから2m位の横穴を掘って営巣するのですがこの穴の奥に枯葉や枯葉を持ち込んで巣にするわけです。こんなに多くの巣穴があるのですから、よほど気を



岩場の上陸



神社の入口にある上陸禁止の看板

つけて歩かないとすぐ巣穴を踏み抜いてしまいます。

§ 調査の準備

テントを設営し、班分けをしてオオミズナギドリが帰島するまでに調査の準備をしました。僕は鳥に標識脚環をつけるバンディング班です。

まず神社の入口にある石燈籠を基準点にし、茂っている木をチェックします。この木は基準点から北に何m、東に何mでAの木とするといった具合です。脚環をつけた時にこの番号をつけた鳥はAの木から何m北、何m西で装着と細かにデータをとるための重要な仕事です。巻尺と水準器とノートを持って歩くのですが、雨にぬれた赤土の斜面といたる所にある巣穴のおかげで2時間程の作業のうち何度も転び、服は赤土の泥にまみれてベタベタになってしまいました。

§ 帰島

一休みして、きれいな海で泳いだり、オオミズナギドリの天敵であるドブネズミの調査の為にトラップをしかけたりしているうちに、辺りはだんだん暗くなってきました。外洋でたっぷり魚を食べたオオミズナギドリがそろそろ帰島する時間です。日が落ちてから30分もした頃でしょうか、はるか向う



冠島はオオミズナギドリの繁殖地として天然記念物に指定されています。



木の枝に不時着したオオミズナギドリ

の海面に何かモヤモヤしたものが現れ、次第に近付いてくる様子です。初めはモヤでもわかり始めたのかと思っていたのですが、近づくにつれ、それがオオミズナギドリの大群であることが判りました。

オオミズナギドリ達は島の周りをグルグル廻りはじめたようです。と、そのうち老人嶋神社の沖合200m位のところで、グルグル廻りながら竜巻のように舞い上がって行きます。それはまるで巨大な蚊柱です。肉眼で見ると何かモヤモヤしたものがグワーッと巻き上げる感じなのですが、双眼鏡を覗くと何千、何万というオオミズナギドリが廻りながら舞い上げて行くのがよく判ります。高さ150mの壮大な蚊柱。漁師たちはこれを鳥柱と呼ぶのだそうです。

これが帰島への壮大なプレリュード。続いてこの鳥柱は崩れはじめ、一羽一羽自分の巣のある辺りを目指し、島に向かって突入します。細長い翼のおかげでオオミズナギドリは着地がうまくありません。みな樹木にぶちあたったり、枝にひっかかったり、地面に激突したりして着地します。それでも、全然平気です。斜面に戻って待ち伏せていた僕の足元に



岩の下の巣にいた親鳥



巣の入口に出て来たヒナ

ドカンと落ちてきた一羽はすぐ立ちあがり、2度、3度頭をふって、ケロツとした様子でトコトコと歩み去りました。こちらが呆気にとられる程丈夫です。僕の周りには落ちてきた鳥達でいっぱいです。ドスン、バサッ、ピーピー、ホーワホーワ、バサバサと辺りは突然のものすごい喧騒に襲われました。このすさまじい光景は鳥吹雪と形容されるそうです。

一時のドスン、バサバサがおさまると今度は辺り一面鳴き交すオスとメスの声で満ちあふれました。ホーワ、ホーワ、ピューーピューーピューー。こんな声があたり一面湧き上りました。ホーワ、ホーワと少し低い声がメス。オスは少しかん高くピューー、ピューーと鳴きます。真暗な闇の中でこの2種の声が無数に交錯します。この異様な雰囲気は鳥地獄と呼ばれるそうです。

§ バンディング

この鳥地獄の中、8時すぎから3人で1組となりバンディングです。広いフィールドの中を縦横に歩き、近くにいるオオミズナギドリを片端からつかまえて脚環をはめて行くのです。脚環は銅とニッケルの合金でモネルと呼ばれる金属でできています。こ



夜中のバンディング

れは長さ3cm、幅1cm、厚さ1mmでCの字型に作られていて、これを脚にかけペンチでたてよこ2度握ってOの字型にしてはずれないようにします。リングには「環境庁 JAPAN 090-65078」という具合に3桁と5桁の数字の組み合わせが刻印されていて個体識別をします。



ヒナの計量をしているところ

既にはめているものをつかまえた時は「Aの木から北へ何m、東へ何mの地点で番号何番のものを捕獲」とチェックします。もし、まだのものをつかまえた時はBの木から北へ何m、西へ何mの地点で番号何番の脚環を装着、という具合にやるわけです。また、ヒナを見つけた時は、Cの木から南へ何m、東へ何mの地点の巣でヒナを捕獲、とノートに記し、ヒナを調べる係の人に渡します。この係の人はヒナの体重や体長など各部の測定をし、脚環をつけて元の巣に戻しておきます。もし翌日もこのヒナを見つけた時はもう一度、体重を測り、1日の間の体重の増加と親からエサをもらったか、もらってないかを調べるわけです。こんな小さなことが、まだよく判っていないオオミズナギドリの生態を知る大きな手がかりとなるのです。

斜面をすべり落ちたり、巣をふみ抜いてしまったり、巣に手を入れて鋭いクチバシでいやという程喰



巣から出したヒナ

いつかれたりして、ノルマの100個のリングを装着し終ったのは12時近くでした。足場の悪い斜面での4時間の奮闘でクタクタ、体中またもやドロみれです。しかし、オオミズナギドリの生態を調査するお手伝いが少しでもできたという満足感で一杯でした。

§ 出発

皆と成果を話し合ったりして一休みし、夜の散歩に出かけました。時刻はもう夜中の1時を過ぎていくというのに島は相変わらず鳴き交す鳥の声であふれ返っています。リング付けをしていない地区に出かけました。到る所、オオミズナギドリだけです。気を付けて歩かないと踏みつぶしてしまうといっても決して大仰ではないでしょう。とにかく17万羽がここに居るので。岩の上で、地面のくぼみで、石の下で、穴の中で、さまざまな所でみな疲れをいやしているようです。

夜中の2時を過ぎた頃、鳴き交す声が一段と高くなってきました。いよいよ出発の時間が迫ってきたのです。この出発の仕方がオオミズナギドリの特徴といっても好いと思います。というのは、この鳥は他の鳥と違い、普通にはばたいては飛び立てないのです。あるものは木に登り、あるものは岩にのぼり、そこから前方に向かって飛び出して、やっと飛ぶことができるのです。

3時。どの鳥もそわそわし始め、ある一点を目指すように一斉に動き始めました。これを鳥行進というそうです。辺りにいる何十羽、何百羽というオオ



出発用の木を登る。木肌に来た無数のミゾが見えますか？

ミズナギドリが一斉に一点を目指して動いて行きます。目指すは前方に海の開けた樹です。出発用の樹の手前に先回りしているとゾクゾクと鳥が集結して来ました。木は殆んど垂直に立っています。いま



出発用の木に集結してきたオオミズナギドリ達

まで恐らく何百万羽というオオミズナギドリがこの木を利用したのでしょう。木肌は鋭い爪でけずられた無数のミゾが出来ていました。一羽が登りはじめました。両足の爪と嘴を使って、はばたきながら懸命に3m程の高さを登ってゆきました。そして前方に向かってボンと飛び出し、実に優雅にスーッと飛び去りました。飛び立ちは続々と続きます。木の下では順番を待つものがビッシリとひしめきあっています。あるものは一気に駆け上り、あるものは途中で一息入れて、飛び立ちの枝を目指します。みな順番を守って一羽ずつ登って行きます。一時に10羽位が木にすがりついていることもありました。途中で失敗して、落下し、再度挑戦というのもしました。3時半から5時の間に、1本の出発木から大体600羽位が飛び立つそうです。下で待機するものは、ピーピー、ホーホー、とにぎやかですが、木にとりついて無言のようです。撮影の為にストロボなどまるで目にとまらないというふうな懸命に木をよじのぼる鳥の姿は僕の脳裏に鮮明に記憶されました。

夜が白々と明ける頃、総ての成鳥は飛び立ち、あの鳥地獄がウソのような静寂に戻りました。

§ おわりに

今回、僕はバンディングを担



1列になって順序よく登ってゆきます。



方形区。各巣穴の前に標識をたててあります。

当しましたが、ある班は10m平方の方形区で一時間置の鳥達の動態を詳しく調査していました。また、たくさんのヒナの体重の増減を夜中ずっと測定し続けた班もありますし、鳥の出発木への執着性を知る為、鳥に染色して調べた班もあります。こうやって3日間、全員フル回転でデータ収集に奔走してきた感じです。オオミズナギドリという、たった一種の鳥の生態を知るために、大変な数の人達の大きな努力が必要なんだなと痛感しましたし、たった3日間の努力でも集積すると大きな成果をあげるんだなとも痛感しました。

最後になりましたが、足手まといになる僕を調査団に加えて下さった吉田団長初め、日本野鳥の会京都支部の方々、山階鳥類研究所の方々、並びに京都動物園の方々に厚く御礼を申し上げる次第です。

とまれ、この経験で收容されてくるオオミズナギドリ保護に対する熱意が一層高まりました。実はこの原稿を書いている最中に、今年第一号のオオミズナギドリがやってきたのですが、この77-01号と来年もう一度、冠島で対面できればなあと思います。



(飼育課：獣医師)

ガン、カモの仲間(ツクシガモ類について)

仲田 幸男

私は此処で今、色彩に富み非常に美しいガン、カモの仲間の一族、ツクシガモ類を皆様にご紹介出来ますのは嬉しい。此等は美しいだけでなく、人には良く馴れて可愛いので日本及び世界の動物園に飼われています。筆者も飼っています。

ツクシガモ類は多くの鴨の様な性質を持っていますと同時に又、少くとも外観は雁の様な容姿も持っていて分類学的には両者の中間とされています。全部で7種ありますが、以下順を追って説明しますと、先づカムリツクシガモは朝鮮に2つとウラジオストック近くに1つと合計3個の標本によってだけ知られており、生鳥は既に絶滅したと云われていますが、日本にも古く文献でだけ知られています。7種の中で此の絶滅種が一番美しかった様です。次に美しいのがシロガシラツクシで体形は他種より小さいのですが、美しく上品な点では他種を圧しています。これには2つの亜種があり、其の一つはモルッカ諸島、ニューギニアに産し、他は北及び東部の熱帯のオーストラリアに産します。雁類と同じく雌雄は羽色は同一ですが、声が違ってきます。即ち雄は細い高声を出しますが、雌は低くしわがれた声を出します。頭部と胸と腹は白色ですが、胸には細い褐色のベルトを背から下へはめています。背から腰の方へは黒褐色です。脚や嘴はピンク色です。次のアカツシガモとは争わず直ぐ有精の交雑種が出来る事から両者は特に近縁の様です。飼育界で大変楽しい鳥として珍重せられています。繁殖の成功は良質の動物食を多給する事です。アカツシガモは全身は黄褐色で美しいものですが、北アフリカと北ユーラシアに産します。日本へも迷鳥として飛んで来る事があります。此等は淡水産で海岸で見るとは稀れです。アカツシガモの雄は頸に黒輪を有し、雌にはありません。且つ雌は嘴の付根から眼の周囲



アカツシガモ雛 生後23日目

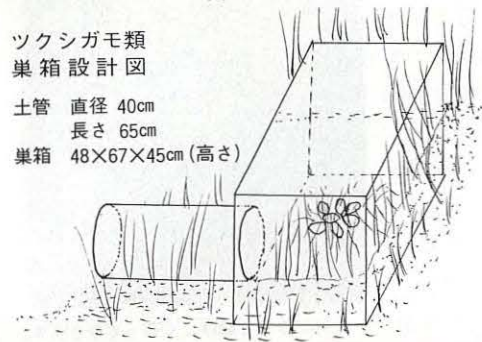
に白色部が広い面積を占めており、雄は眼のまわりは一様に黄褐色である事から、雌雄の判別は外観で容易です。又、雌雄で鳴き声も違ってきます。次ぎにはクロアカツシとクビワアカツシについてですが、前者はニュージーランドの北、南島及びステューワート島に広く分布しています。雌は頭から頸にかけて白色ですが雄及び幼鳥は頭部は黒色で、其の他の部分は雌は褐色で雄は黒色が強いです。面白い習性はクビワアカツシと同様に繁殖のために異性を選ぶのは雌でありまして雄ではありません。即ち雌は雄の周囲を高声を出しながら走り、頭と嘴を雄に向けて此の雄に他の鳥に攻撃させる様にそそのかし、絶えず此の闘争に負けた雄を放棄して、最強の雄を自分の相手を選びます。クビワアカツシは其の名が示す如く頭部は黒ですが、頸に雌雄ともに白輪を持っています。南オーストラリアの南部とビクトリア及びタスマニアに沢山います。次ぎにはネズミガシラアカツシですが、これは頭部はネズミ色ですが、雌は眼の周囲だけ白く全身は雌雄とも褐色で、これは南アフリカケープ地方等に産します。最後にツクシガモですが、これも色彩に富み美しいのですが、これは欧州で換羽のための渡りで広く知られており、又、第2次大戦後射撃目標として使われた事は鳥学者や生物学者を困惑させました。西ヨーロッパ、英国、地中海、黒海、カスピ海、中央アジアから東シベリア、モロコ、チベットの海岸、湖沼で繁殖し、冬期は上記繁殖地域の南部、北アフリカ、アラビア、印度、南支那、日本へも来ます。

ツクシガモ類は地面の洞穴に産卵と抱卵をしますので、飼育場でも大型巣箱の半分を土に埋めて長さ60cm程の土管を通して巣箱の中に入る様になると繁殖に成功します。尚、エジプトガンと稀種のオリノコガンも本類に同系とされています。

(筆者：日本雉、水鳥協会理事長)

ツクシガモ類
巣箱設計図

土管 直径 40cm
長さ 65cm
巣箱 48×67×45cm(高さ)



動物園ニュース

☆トラとライオンの誕生

9月6日、トラが出産しました。母親はこれが3度目の出産なのですが、過去2回いずれもうまく育児せず、今回こそはと思っていたのですが、3頭生まれた内の2頭が発育不良で死亡したため、残る1頭を途中から人工哺育に切りかえました。丁度離乳期に入っており



ました。ベニジュケイは珍しいキジの一種で、日本では初のお目見得です。

☆防犯週間の啓蒙
にオランウータンも一役

10月30日から始まる全国防犯週間に際し、防犯思



夢が広がるショッピング... 近鉄がお届けします



上本町店 (06) 779-1231



アベノ店 (06) 624-1111



奈良店 (0742) 33-1111

近鉄百貨店

先月、上海から贈られた中国一上海市と大阪市の友好都市提携3周年を記念して動物交換を行うことになり、10月24日、当園からの贈り物のチンパンジー2頭が上海に向けて出発しました。上海市からは11月2日、ベニジュケイ2番が贈られて来

の休園日は下記の通りです。

12月19日、12月29日～31日(年末休園)

開園時間は9時半～4時半で、4時に切符売止めになります。

ガン、カモの仲間(ツクシガモ類について)

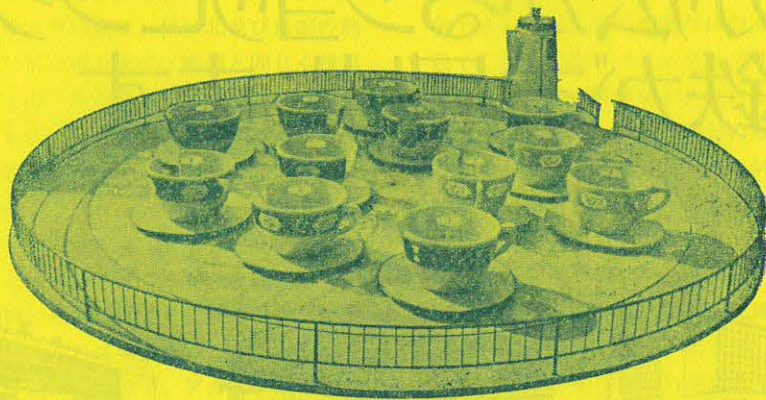
仲田 幸男

私は此処で今、色彩に富み非常に美しいガン、カモの仲間一族、ツクシガモ類を皆様にご紹介出来るのは嬉しい。此等は美しいだけでなく、人には良く馴れて可愛いので日本及び世界の動物園に飼われています。筆者も飼っています。

ツクシガモ類は多くの鴨の様な性質を持っていますと同時に又、少くとも外観は雁の様な容貌も持っていて分類学的には両者の中間とされています。全部で7種ありますが、以下順を追って説明しますと、

に白色部が広い面積を占めており、雄は眼のまわりは一様に黄褐色である事から、雌雄の判別は外観で容易です。又、雌雄で鳴き声も違っています。次ぎにはクロアカツクシとクビワアカツクシについてですが、前者はニュージーランドの北、南島及びステューワート島に広く分布しています。雌は頭から頸にかけて白色ですが雄及び幼鳥は頭部は黒色で、その他の部分は雌は褐色で雄は黒色が強いです。面白い習性はクビワアカツクシと同様に繁殖のために異性を選ぶのは雌でありまして雄ではありません。即

遊園施設委託経営・製作・販売

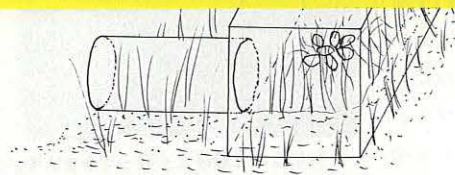


久竹 娯楽株式会社

本社工場 大阪市西区南堀江通3-40
電話 大阪(06)541-3112・3938 番



アカツクシガモ雛 生後23日目



動物園ニュース

☆トラとライオンの誕生

9月6日、トラが出産しました。母親はこれが3度目の出産なのですが、過去2回いずれもうまく育児せず、今回こそはと思っていたのですが、3頭生まれた内の2頭が発育不良で死亡したため、残る1頭を途中から人工哺育にかえしました。



丁度離乳期に入っており、人間になじまず、成育が心配されました

が、10月末頃より自力で餌も食べるようになり、まずは一安心というところです。



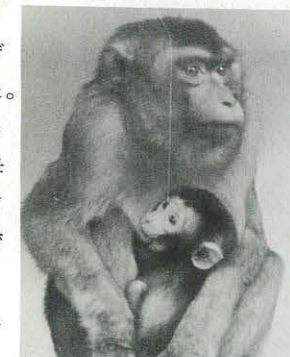
10月7日にはエチオピアライオンが生まれました。母親はこれが6度目の出産で、順調に育てていたのですが、途中からどうも母乳の量が少ないのか、仔がやせてきたため、これも10月28日から人工哺育にかえしました。仔はメスで、当初衰弱が激しかったので心配しましたが、日一日とミルクを飲む量も増えてきており、成育も良好です。

☆ブタオザルの出産

10月24日、ブタオザルが1頭生まれました。仔は母親にしっかりとしがみついておりますが、母親もじょうずに育てているので、うまく成育することでしょう。

☆上海市からベニジュケイの贈物

先月号でもお知らせしたように、中国—上海市と大阪市の友好都市提携3周年を記念して動物交換を行うことになり、10月24日、当園からの贈り物のチンパンジー2頭が上海に向けて出発しました。上海市からは11月2日、ベニジュケイ2番が贈られて来



ました。ベニジュケイは珍しいキジの一種で、日本では初のお目見得です。

☆防犯週間の啓蒙にオランウータンも一役

10月30日から始まる全国防犯週間に際し、防犯思想の啓蒙普及ということで、当園のオランウータンのサツキちゃんもそのPRに一役かって、10月30日



んもそのPRに一役かって、10月30日の当日、防犯運動のゼッケンをつけて、婦警さんと一諸に

に入園者の方々に防犯の重要性をうったえました。

☆新着動物

10月は数多くの新着動物がありましたので御紹介しましょう。ヘビ類ではイエローラットスネーク、レッドラットスネーク、フロリダキングスネーク、カリフォルニアキングスネーク、ブラックレーサー各2頭、レッドテールレーサー、マングローブスネーク各1頭、計7種類12頭のヘビが入園しました。鳥類ではキンランチョウ、ソウシチョウなど9種類27羽の鳥が入園し、それぞれ元気に展示されています。

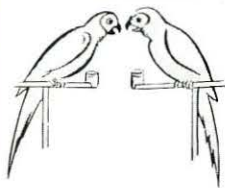
◎お知らせ◎

◆12月から3月末まで地下道の改修工事を行います。ご不便をおかけしますが、よろしく御了承下さい。

◆動物園の休園日は毎月第3月曜日です。年内の休園日は下記の通りです。

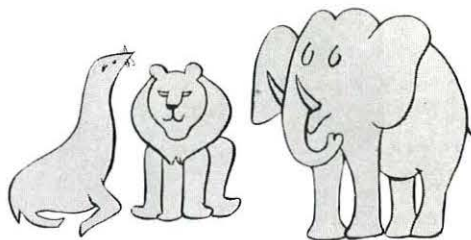
12月19日、12月29日～31日(年末休園)

開園時間は9時半～4時半で、4時に切符売止めになります。



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517
 飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル